

湖北

江戸時代の鉄砲鍛冶師で科学技術者としても知られる国友一貫斎（1778～1840年）が考案した飛行機「阿鼻機流 大鳥秘術」の10分の1縮尺模型が、長浜市国友町の国友鉄砲ミュージアムで展示されている。5月末までの予定。

同市在住で国友鉄砲研究会会員の鈴木健市さんが紙と木を材料に1カ月以上かけて製作。縦66センチ、横120センチある。昨年発見された詳細図が基

になっている。実際には飛ばない構造だが、足でこいで鳥のような羽を動かし、尾羽を模した尾翼も動く。

同館の川上幸夫館長は「一貫斎は図面しか残していないが、模型になってよりリアルに飛行機の構造を知ってもらえると思う」と話していた。

【長浜通信部・長谷川隆広】



国友一貫斎が考案した飛行機の縮尺模型

長浜

一貫斎の飛行機図を模型に
国友鉄砲研究会メンバー金賞に岐阜県の北嶋さん
野鳥写真コンテスト

長浜

県内外から82点の応募があった「ながはま野鳥写真コンテスト」（湖北野鳥センター主催）の審査結果が発表され、金賞は岐阜県垂井町の北嶋敏和さんの作品「楽園の夜明け」に決まった。

北嶋さんは8月に長浜市湖北町でダイサギの群れを撮影。審査で「明暗のコントラストの捉え方や構図が素晴らしい。時間と場所をじっくり考えないと撮れない写真だ」と講評された。

銀賞には同市地福寺町の風間一範さんの作品「若い翼」、銅賞には同市湖北町の中川敏和さんの作品「小さな体で大きな声」が選ばれた。

金賞を受賞した北嶋敏和さんの「楽園の夜明け」
湖北野鳥センター提供

他に5点が入賞した。

【長浜通信部・長谷川隆広】

湖東

彦根

地元の食と歴史を味わって
商議所がオリジナル動画

新型コロナウイルス禍の中で頑張る飲食業界を応援しようと彦根商工会議所などは地元グルメを紹介するインターネット動画を作成した。タイトルは「近江美食チャンネル」。商議所のサイト（https://www.hikone-cci.or.jp/youni_bisyoku/）で計10本を配信している。

「近江の味と歴史を味わう」と題した動画はオーストラリア出身のクリス・グレンさんが2軒の老舗を訪問する。彦

根市本町の「いと重菓子舗」では藤田武史社長にインタビュー。糸間屋だった糸屋重兵衛が1809（文化6）年、妻の夢のお告げに従い菓子業に転じたと説明を受ける。また、豊郷町吉田の「岡村本家」では1854（安政元）年、彦根藩主・井伊直弼の命令で酒造りが始まったなどと由緒を聞く。このほかクラフトビールや近江牛、伊吹そばなどが登場する動画がある。

【彦根通信部・伊藤信司】

昨年のバルブ生産堅調
4年連続270億円台維持

彦根



彦根バルブ協同組合のパフレット

滋賀バルブ協同組合（彦根市岡町）は2021年1～12月の生産高を発表した。対象23社の合計は前年比2・3％減の272億3100万円。

一方、18年以降4年連続で270億円台は維持し、新型コロナウイルス禍による大幅な減産は避けられた。

業種別内訳は、水道用弁101億5000万円（前年比0・7％減）▽産業用弁105億5700万円（同0・5％増）▽船用弁52億8800万円（同10・5％減）▽铸件12億3600万円（同1・2％減）。産業用弁は設備投資や建設業界の回復で微増となった。船用弁も世界的なコンテナ不足などを受け、今後は回復基調だという。

彦根では明治中期、飾職人の門野留吉がカラン作りを始め、バルブやコックの製造が盛んになった。現在は関連企業で約1500人が働くまでになっている。

【彦根通信部・伊藤信司】